宮城舞台技術者協会 令和５年度 第４回理事会　議事録

日時	2023 年　12 月　14 日　9 時　00 分 ～　9 時　30 分	場所	仙台サンプラザホテル 2階 青葉
議題	・１月理事会について ・２月総会について		

出席者	岸浪行雄	石井忍	菊地孝
	関紀子	山品晃彦	
	伊藤幸夫（事務局長）	斎藤環江（事務局）	
			理事、事務局 ７名

決定事項

●１月理事会について

１月２５日　10時～　(株)東北共立様にて

●２月総会について

２月１９日を第１候補とし、午後３時以降で調整

議事内容

■１月理事会について

・令和５年度の活動報告をまとめる

・令和６年度のサロンの内容について、理事さんにご提案いただく

■２月総会について

・日程の第１候補を決める。

→　例年と同じ時期が良いのではないか。第１候補として、2月19日月曜日　午後３時以降であれば、、、

■金属回収について

・12月20日に、買取をお願いする予定。

・現金を一度口座に入金後、昨年同様、NHK歳末たすけあいを通じ、募金する。

・東京エレクトロンホール宮城に、回収用の缶が設置されていないようだが、どうなっているのか。

→　岸浪代表に対応いただく

■その他

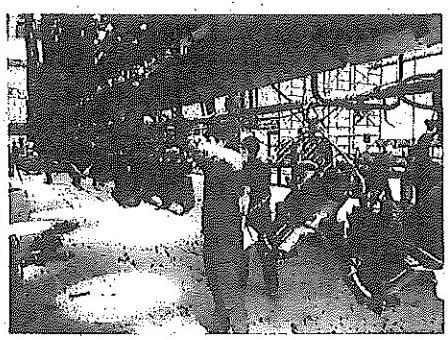
・12月14日、本日開催のテールゲート講習の参加者について、38名となった。

・宮城県から要請のあった、今年度の芸術銀河の参加について、宮城県から、「本年度は申し込み多数となったため、開催を見送ってほしい」との連絡があったため、開催は見送ります。

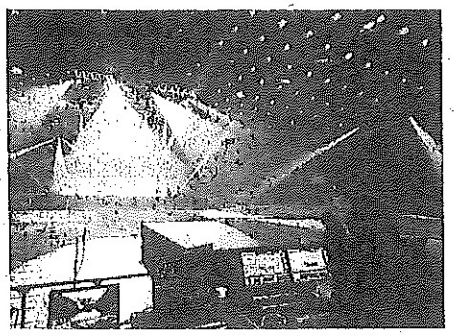
照明、音響、大道具など

「舞台技術」が産業分類に

公演やイベントを裏で支える照明、音響、大道具などの舞台技術スタッフは長年、日本標準産業分類で「その他」扱いの業種と位置付けられ、コロナ禍での国の支援策の対象業種から外れるなど不利な状況を強いられてきた。今年6月、公明党の訴えにより、同分類に「舞台技術サービス業」が新設され、関係者から喜ばれている。



照明機材のピントや雰囲気を調整するスタッフ



場面ごとの照明の色など演出のプログラミングを行う様子

「その他」扱い、不利多く

コロナ禍 支援対象外になることも

ステージ作る裏方

幾重にも降り注ぐ光がステージを照らし出す――。表舞台に立つアーティスト数人の裏には、何百倍もの数のスタッフがいる。

「コンサートなどの照明の仕事に就いて約35年がたつが、今でも自分たちで作り上げたステージを見た客が歓声を上げて沸く瞬間は感動する」

こう語るのは、舞台音響・照明の国内大手である株式会社共立で照明部部長を務める吉澤弘行さん(57)だ。

照明スタッフは公演やイベントごとに、照明機材の搬入、仕込み、ライトの位置や大きさの調整、演出のプログラミングなどの作業を行う。本番中も照明を操作し、終演後はすぐに機材の解体、搬出に取り掛かる。

公演中止で打撃

2020年のコロナ禍は、こうした舞台技術スタッフの仕事や生活に甚大な打撃を与えた。全国で公演やイベントの中止・延期が相次ぎ、倒産危機に直面した会社も少なくなかった。

政府はさまざまな支援策を実施したが、舞台技術の事業者は当初、政府の支援策の対象業種から外れてしまっていた。日本標準産業分類では「他に分類されないその他の事業サービス業」などとされるからだ。

このため、コロナ禍で経営の危機に陥っているにもかかわらず、舞台技術関係の経営者はセーフティネット保証4号、5号などの資金繰り支援策や、従業員を守る雇用調整助成金などを利用できなかった。

雇用調整助成金などは後に、対象が全産業に広がったが、日本標準産業分類を改定しなければ将来また支援の対象から外れる事態が起こりかねない。

「コロナ禍の初期、行政の支援策の対象から漏れて申請が通りにくく、本当に苦労した。早く分類を改定してもらいたい」

舞台技術関係者の切実な声を聴いた公明党は、すぐに政府に掛け合い、同分類への舞台技術の分類新設を求めた。

22年1月の衆院予算委員会では、浮島智子衆院議員が「(舞台技術関係者に)しっかりと支援を届けるため、日本標準産業分類に新たに分類を設定する必要がある」と強く訴え、萩生田光一経済産業相(当時)から「新たな分類設定へ検討する」との前向きな答弁を引き出した。その後も公明党は、政府への提言などを通じて粘り強く分類改定を主張してきた。

こうした党の取り組みが実り、政府は今年6月に同分類を改定し、新たに「舞台技術サービス業」の分類を設けた。来年4月に施行される。

全国に約60万人いる舞台技術スタッフの大多数は会社勤めの雇用労働者だ。多くの従業員を抱える舞台技術事業者にとって、雇用調整助成金などを受けられないことは死活問題だった。

業種として認められる

公明 切実な声聴き政府動かす



日本舞台技術スタッフ団体連合会
専務理事 寺田 航(こう)氏

悲願を達成、尽力に感謝

浮島智子 苦境の中、希望になった

舞台技術スタッフなくして、文化芸術、ライブエンターテインメント産業は成り立たない。しかし、従来の日本標準産業分類で舞台技術サービス業は、銀行での融資や、行政への補助金申請などの際に「その他」扱いを受け、事業経営において不利を強いられていた。

私はこれまで、分類改定について、多くの政治家や行政関係者に相談してきたが、話を聞くだけで結局何も変わらないことが多かった。

だが、公明党の浮島智子衆院議員は違った。元バレリーナで、劇団を主宰した経験もあることから、業界の実情を肌感覚で理解し、すぐに動いてくれた。特に浮島氏の国会質問では、国の支援が届きにくい実態を取り上げてくれ、コロナ禍で苦境にあえぐ関係者にとって大きな希望となった。

今回、長年の悲願とも言うべき舞台技術サービス業の分類新設を達成でき、全国の関係者に喜びが広がっている。公明党には今後も、文化芸術施策をリードしてほしい。

2023年10月 5日　公明党新聞より